

パフォーマンステスト「はじめましてインタビュー」(第8時)

測る力	話すこと [やり取り] : 名前・つづり・好きなものを伝え合えるか (知識・技能／思考・判断・表現)
形式・時間	先生と1対1で約1分×全員。教室前方のテスト席で (となりに待機イス1つ＝流れが止まらない)。
ことばの条件	キーフレーズポスターは掲示したままでよい (見て言えれば十分)。かきかたワーク① (自分の名前を書いた紙) を持って来てよい。絵カード (提示用1部) はテスト席に置いておく。

35人を回す テスト中、ほかの子は何をしているか (これが崩壊しない鍵)

グループ	やること	用意する物
A (テスト中の班)	順に呼ばれてテスト席へ。呼ばれる前と終わったあとは、席でBと同じことをする	もらった名刺
B	名刺あてクイズ (名前をかくして I like ~. だけ読む→だれの名刺か当てる・小声で)	もらった名刺
C	好きなもののビンゴ2枚目 (立ち歩かず班の中だけで小声で・○を増やす)	活動シート1の予備
D	振り返りカードの「つぎの单元へ」を書く (書けたら席でBと同じことをする)	振り返りカード (パック同梱)

1班終わるごと (9~10分) に役割がA→B→C→D→Aと1つずれる (テストを終えた班がBへ、Dの班が次のテスト班へ)。1班8~9人・約1分×35人で35~40分。呼ぶ順は名簿順でなく班ごと (待機イスに座るのは呼ばれる直前の1人だけ)。終わった子は、聞かれたことを話さない——後の子が思い出しテストになる。



先生の質問カードと、評価しないこと

先生の質問カード この順に聞く（子どもによって2～3問でよい）

- 1 **Hello! I'm (先生の名前).**
(先生が先に名乗る→子どもが Hello! I'm と名乗れるか)
- 2 **How do you spell your name?**
(つづりを言えるか。かきかたワーク①を見てもよい)
- 3 **What sport do you like?**
(好きなものを答えられるか)
- 4 **What subject do you like?**
(余裕があれば2問目。1問で十分なら省略)
- 5 **(ここで3秒、だまって待つ)**
(子どもから質問が返ってきたら——同じ質問なら知技a、ちがう質問なら思判表a。出てこなければ次へ)
- 6 **Nice! Thank you. See you!**
(お別れのあいさつまでがテスト)

評価しないこと 発音のうまさ・声の大きさ・文の完全さは評価しない。単語だけの答え（Soccer!）も、伝わっていればbとする。減点主義にしない（不安の再生産になる）。答えの中身（どのスポーツ・どの教科か）や、名前の長さ・つづりのむずかしさも評価と無関係。

ルーブリック（3観点）と記録シート

観点	a（十分満足）	b（おおむね満足）	c（支援が必要）→その場でする支援
知識・技能	I'm / How do you spell your name? / What sport do you like? を正しく使って名前・つづり・好きなものを伝え、同じ質問を相手に返せる	支えの質問や単語だけの答えを交えつつ、名前と好きなものを伝えられる	先生の2択の助け（Soccer? Baseball?）で選んで答えられる→ポスターを一緒に指さして1文だけ再挑戦させる
思考・判断・表現	質問に合った内容を選んで答え、Me, too! などの反応を返したうえで、名刺こうかん会と同じように自分から質問を1つ足して、間があいてもやり取りを落とさずに続けられる	質問に合った答えを返せる	質問と答えがずれる→質問をゆっくりくり返し、絵カードを見せて選ばせる
主体的に学習に取り組む態度（単元全体で）	振り返りカードに自分のめあてと手ごたえが具体的に書かれ、名刺こうかん会でも聞き返しや反応に加えて、もう一つの質問を自分から使おうとしていた	活動に参加し、振り返りに手ごたえが書かれている	→振り返りの視点を一緒に選ぶ（「今日だれと話せた？」から）

迷ったらb。cは「できない子」ではなく「次の一手がわかる子」として記録する。

記録シート 名簿順に○を1つ（テスト中はこれ以上書かない）

番号	名前	知技	思判表	メモ（1語だけ）
1		a b c	a b c	
2		a b c	a b c	
3		a b c	a b c	
4		a b c	a b c	
5		a b c	a b c	
6		a b c	a b c	
7		a b c	a b c	
8		a b c	a b c	
9		a b c	a b c	
10		a b c	a b c	
11		a b c	a b c	
12		a b c	a b c	

この用紙は12行。名簿の人数ぶん印刷して使う（3枚で36人）。態度（主体性）はテスト当日でなく、単元全体の振り返りカードと帯の様子で見る。

この単元の所見文例（通知表・指導要録に）

テストと振り返りカードの記録から、そのまま使える形で。名前・活動名を入れ替えて使ってください。

【**知技・a**】外国語「Hello, friends!」の単位では、名前のつづりや好きなものを伝え合う表現を正しく使い、初対面の設定のインタビューで堂々と自己紹介することができました。

【**知技・b**】スペル・インタビューでは、How do you spell your name? とたずね、友だちの名前を1文字ずつ聞き取って4線に書き写すことができました。名刺こうかん会では、名刺を見ながら名前と好きなものを伝えていきます。

【**思判表・a**】名刺交換の活動では、相手の答えに「Me, too!」と反応を返したり、聞き取れないときに聞き返したりするなど、相手意識をもってやり取りを続ける姿が見られました。

【**思判表・b**】好きなもののビンゴでは、スポーツ・食べ物・教科の中から相手に聞きたいことを自分で選んでたずね、返ってきた答えを自分のマスと照らし合わせました。友だちのことを知るためのやり取りができています。

【**態度**】振り返りカードに毎時間のめあてと手ごたえを1行ずつ書きため、うまく言えなかった表現を次の時間に言い直そうとするなど、自分の学び方を調整しながら粘り強く取り組みました。

【**態度**】英語の歌やSmall Talkの時間にいつも体を乗り出して参加し、覚えた表現を休み時間にも使ってみるなど、英語への興味を広げています。

【**はげまし型**】キーフレーズポスターを見ながらであれば、あいさつから What sport do you like? の質問まで自分で進めることができます。名刺カードには、自分の名前を大文字でいねいに書き上げました。

【**接続型**】5年生から教科になった外国語の学習に意欲的に取り組み、3・4年生で親しんだあいさつの表現を生かして、つづりや好きなものまで伝えられるようになりました。

【**発展・★3**】先生の Small Talk を絵の助けなしに追いつき、三つ四つの文から「何の話か」をつかんだ上で、好きなスポーツという手がかりも一つ選び取っていました。

書き方の型 ①活動名（具体）／②できるようになったこと（評価規準のことば）／③子どもの姿（1つだけ）の3つで組み立てる。順番は入れ替えてよく、②や③から書き出すと、同じ子に毎学期同じ文型の所見が届くのを防げる。cの子は「できつつあること」＋「支えがあればできること」を書く（できないことは書かない）。★3は「教科書を超えて届いた子」の記録。この★は成績そのものではありません（評価は先生の観点に沿って行います）。